



かんじ 漢字はどこからやってきたの

3000年前ごろ中国から

中国で漢字ができたのは、およそ3300年前といわれています。その後、長い年月をへて、日本に伝わってきたものでしょう。

漢字ができるまでは、遺跡から見つかる土器などに、記号のようなものがしるされていますが、それは文字ではなく、たんなる記号なのです。

では、その漢字はどのようにしてできたのでしょうか。漢字や古代エジプト文字にも見られるのですが、ものの形をかたどって作られた文字があります。例えば、山・川・月・日など、実際のものの形を図形としてえがき、それを漢字としているのです。これらの漢字を象形文字といいます。

ほね 骨にきざまれた甲骨文字が発掘された

19世紀の末になって、中国の殷王朝のりょう地であったところから、たくさんの太古のうらないの記録が発掘されました。それらは、カメのこうらやけものの骨にきざみつけられた文字だったので、「甲骨文字」とよばれています。これらの甲骨文字は、人・女・手・耳などの字が、絵のように表現されている象形文字です。（監修・保岡 孝之）

